

文化財センター通信

【かぎぐるま】

風車

第 41 号

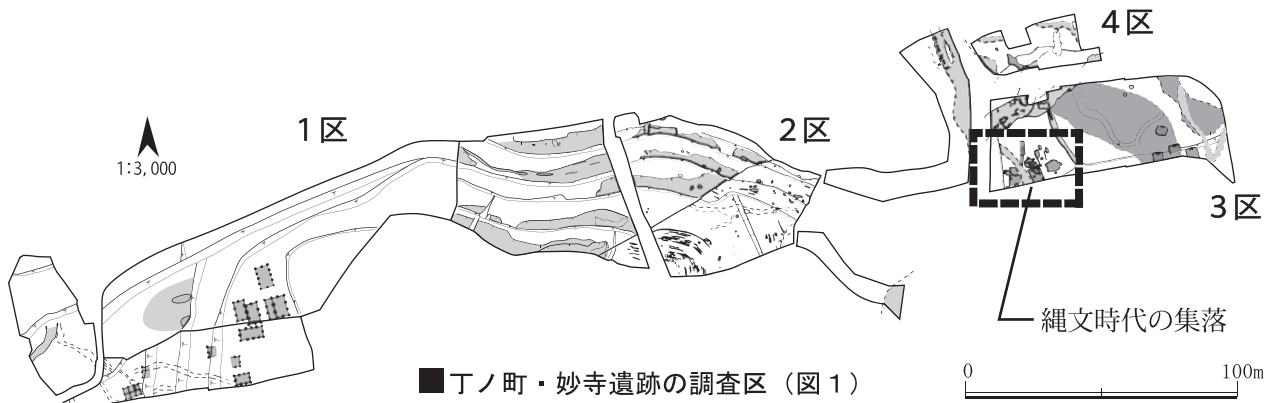
平成20年3月00日発行



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター

かつらぎ町 丁ノ町・妙寺遺跡の縄文集落 京奈和自動車道遺跡の発掘調査 -その4-



■丁ノ町・妙寺遺跡の調査区(図1)

での
関連

かつらぎ町における京奈和自動車道の発掘調査では、様々な時代の遺構が見つかっていきます。中でも今回の丁ノ町・妙寺遺跡の発掘調査では、今まで実態のわからなかった紀ノ川中・上流域の縄文時代の集落の様子が明らかになりました。近畿地方での縄文時代の集落は数が少なく、和歌山県内の縄文時代を考える上でも重要な成果となります。

今号は、前号に引き続き丁ノ町・妙寺遺跡の発掘調査について、特に縄文時代の集落を中心に調査成果を紹介します。縄文時代の集落が見つかった場所は今回の調査区の最も東に位置する3区と呼ばれる調査区です(図1)。3区では中世〜古代(700年〜1000年前)の層、古墳時代〜弥生時代(1500年〜2100年前)の層、縄文時代後期(4500年前)の層と、大きく3つの時期の層があり、各時代の遺構、遺物が含まれています。縄文時代の集落は、この一番下の面で見つかっています。縄文時代の集落は約400㎡の範囲と全体の調査面積からすればごくわずかな範囲ですが、竪穴住居をはじめ多くの遺構が残りのよい状態で見つかっています。縄文時代の集落の時期は、出土した土器から縄文時代後期と呼ばれる今から4500年前の時代のもので考えられます。

縄文時代の集落

縄文時代の集落では生活に関する遺構と、祭祀に関する遺構、お墓に関する遺構が見つかっています。

生活に関する遺構は、竪穴住居や土坑とよばれる地面に掘った穴がた

—第41号の主な内容—

1. 京奈和自動車道遺跡の
発掘調査 -その4-
「かつらぎ町
丁ノ町・妙寺遺跡の縄文集落」
2. 【コラム考古学の散歩道16】
人類カレンダー

土坑とよばれる地面に掘った穴がた
くさん存在します。竪穴住居1は長
さ5.4m×4.4mと東西に長く、隅丸方
形の住居です。縄文時代の竪穴住居
は綺麗な円形や四角形という整った
形をしているわけではありません。
柱穴は無数に存在し、壁際には周壁
溝と呼ばれる溝が巡ります。一方、
やや小型の竪穴住居2は長さ2.9m×
3.4mと隅丸方形を呈する住居です。
竪穴住居2からは石鏃が20点以上と
多く出土しています。また、石器を
作る途中で出る石くずである剥片が
大量に出土していることから、この
住居で石器を作っていたと考えられ
ます。竪穴住居3は長さ4.0m×3.2m
のいびつな円形の住居で、中央に設
けられた土坑は炉と考えられます。
炉を中心に柱穴が7つほど並びます。
また祭祀に関する遺構は、配石遺
構があげられます。集落の中央には、
付近から持ち込んだ10〜20cm大の礫
が、幅2.5m程の範囲で広がる配石遺
構が検出されています。配石遺構1
の中央には、紀ノ川から運んできた
結晶片岩と呼ばれる青い石を立てて

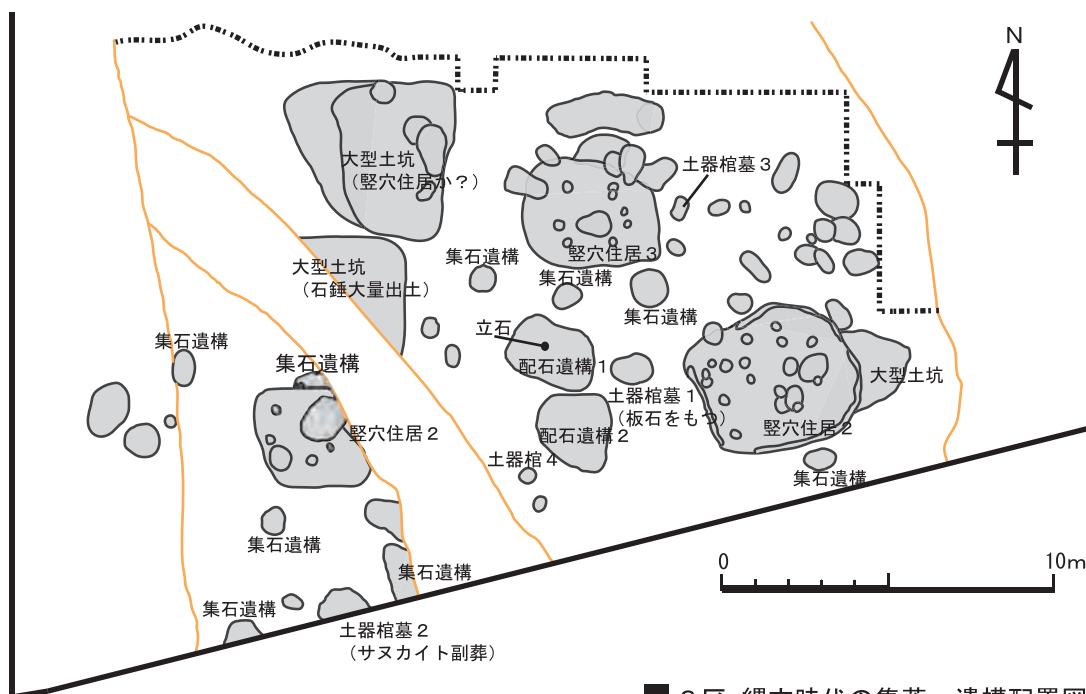
います。こうした石は立石と呼ばれ、祭祀の場
で用いられたものと考えられます。
竪穴住居や、土器棺墓、集石
遺構がこの配石
遺構を取り囲む
ように見つかっ
ており、配石遺
構は集落の祭祀
(おまつり)の
空間として使われていました。
お墓に関する遺構は墓と考えられ
る土器棺墓や集石遺構で、竪穴住居
の周りに広がっています。今回は残
念ながら骨は残っていませんでした
が、土器棺墓は骨を再度埋葬し供養
したと考えられています。中央の配
石遺構に接して作られた土器棺墓1
は、土器棺の下と上に結晶片岩の板
石を置き、まるで土器棺をサンドイ
ッチしたようにお墓が作られていま
す。板石を使う土器棺墓は大変珍し
い例です。棺の下の板石は厚くて重



■土器棺墓1 (蓋石除去後)

いものを、棺
の上の蓋石は
薄くて軽いも
のを使用して
おり、非常に
手間をかけた
お墓だといえ
ます。集落の
中央に存在す
ることから、
集落のリーダーもしくは英雄のよう
な人であったかもしれません。一方、
土器棺墓2は周囲に石を伴っており、

当時の煮炊き道具である深鉢を棺に
用いたものです。土器棺墓のすぐ傍
からは石器原材料であるサヌカイト



■3区 縄文時代の集落 遺構配置図

の石核せかくが出土しており、死者に対して副葬されたものと思われます。

縄文時代の遺物

縄文時代の集落からは土器をはじめとして、石斧、サヌカイト製の石鏃いしやり、ナイフの役目をするスクレイパー、石鏃いしやり、魚を取る網につけるおもりである石鏃せきすい、木の実をすりつぶす磨石すりいしなどの縄文時代の人々が使った生活道具がたくさん見つかっています。石鏃は大きな土坑から20点以上集中して出土しています。長い年月により網などの植物繊維は分解されて、残っていませんが石鏃が一行に並ぶことから、網につけられた状態で置かれていたと考えられます。

多量の遺物の中でも特に注目できるものとして磨製石斧ませいせきこがあります。この石斧の石材は蛇紋岩じやもんがんとよばれ、北陸地域から運ばれたものです。現在知られている中では最も南での出土となります。

その他、サヌカイト製の石器を製作する際の剥片や、原材料である石核・原石が多く出土します。サヌカイト

は奈良県と大阪府の境にある二上山というところで取れる堅くて薄く割れやすい特徴をもつ石材です。おそらく遺跡から出土するサヌカイトは二上山から持ち運ばれてきたと考えられます。今回の調査で得られた、最も大きなサヌカイトの原石は、長さ30 cm×20 cm×15 cmほどの巨大な塊で、県内の例では最大のサイズです。



■ 出土した石鏃



■ サヌカイト石核と石器

まとめ

― 丁ノ町・妙寺遺跡の縄文集落と人々の生活 ―

丁ノ町・妙寺遺跡の縄文時代の集落からは堅穴住居をはじめ多くの遺構や遺物が見つかりました。縄文時代の堅穴住居は近畿地方では検出例が少なく、県内でも20数例しか見つかっていません。このことから堅穴住居4棟という数は決して少なくはありません。また、奈良県域を含めても、紀ノ川中・上流域では、堅穴住居をはじめとした各種の遺構を伴う縄文時代の集落は初めての事例と

なります。

また出土遺物からは縄文人の生活をうかがい知ることができました。おそらく石鏃で狩をおこない、石鏃では網漁を、磨石では木の実を磨り潰し、スクレイパーで獲物を調理し、土器で煮炊きをしていたのでしょう。北陸製蛇紋岩石斧やサヌカイトの出土から、丁ノ町・妙寺遺跡に住んだ縄文人は和泉山地を越え、紀ノ川をさかのぼり、奈良、大阪、北陸地域といった様々な地域と交流を行っていたことが伺えます。

(田中 元浩)



■ 堅穴住居2 遺物出土状況



■ 縄文時代の集落 全景

／ コラム【考古学の散歩道 その16.】

人類カレンダー

地球カレンダー		
カレンダー	出来事	実際の年代
1月 1月1日	地球誕生	46億年前
2月 2月上旬 2月下旬	陸と海が形成 原始生命誕生	40億年前 39億年前
3月		
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月 9月下旬	多細胞生物誕生	12億年前
10月		
11月 11月下旬	魚類誕生	5億年前
12月 12月10日 12月26日 12月31日	恐竜出現 恐竜全滅 人類誕生	3億年前 6000万年前 500万年前

出来事	実際の年代
12月31日	
午前10:40	猿人登場
午後15:30	猿人(ラミダス猿人・ ・アウストラロピテクス) <直立二足歩行・道具使用>
午後19:20	猿人(ガルヒ猿人) 原人(ホモ・ハビリス) <石器使用>
午後19:25	原人(ホモ・エレクトス =ジャワ原人・北京原人) <火の使用>
午後23:00	旧人(ネアンデルタール人)
午後23:30	新人(ホモ・サピエンス=クロマニヨン人) <人類直接の祖先> →日本では旧石器時代
午後23:58	農耕開始 <新石器時代> →日本では縄文時代
午後23:59 45秒	紀元0年 →日本では弥生時代中頃
午後23:59 58秒	産業革命
午後23:59 59秒	20世紀

(人の一生=0.5秒)

人類カレンダー		
カレンダー	出来事	実際の年代
1月 1月1日	猿人登場 (アウストラロピテクス)	500万年前
2月		
3月		
4月		
5月		
6月		
7月		
8月 8月上旬	原人(ホモ・ハビリス)	250~ 200万年前
9月 9月上旬~ 11月下旬	ホモ・エレクトス (ジャワ原人)	200~ 50万年前
10月		
11月 11月下旬 11月下旬~12月上旬	北京原人 旧人(ネアンデルタール人)	50万年前 50~20万年前
12月 12月24日~ 12月29日~	新人(ホモ・サピエンス) クロマニヨン人→日本は旧石器時代	10~1万年前 3万年前
12月 12月31日6:00~	縄文時代開始	1万年前

出来事	実際の年代
12月31日	
午前6:00	縄文時代開始 (縄文土器製作)
午後19:30	弥生時代開始 (稲作農耕伝来)
午後20:30	キリスト誕生
午後20:50	卑弥呼 (邪馬台国)
午後21:00	古墳時代 (前方後円墳造営)
午後21:40	奈良時代 (平城京遷都)
午後21:50	平安時代 (平安京遷都)
午後22:40	鎌倉時代 (鎌倉幕府成立)
午後22:50	室町時代 (建武の新政)
午後23:20	江戸時代 (江戸幕府成立)
午後23:45	明治時代 (明治維新)
午後23:50	昭和時代
午後23:58	平成時代

先日、打田中学校で出張授業をおこなった際に、人類の歴史について時間の流れを理解してもらったために「人類カレンダー」なるものを作ってみた。地球の誕生から現在までの歴史を1年間(365日)

に置き換えた「地球カレンダー」はこれまで広く知られていて、地球誕生を1月1日とすると人類の誕生は12月31日になる。考古学は人類の歴史を研究対象とするので、人類誕生からの歴史をさらに1年間

に置き換えて「人類カレンダー」を作成した。人類の誕生(猿人の誕生)は諸説あるのでここでは500万年前として、これを1月1日とすると、土器を使い始めた縄文時代の開始は12月31日の明け方になる。教科書では旧石器時代までは数ページ分、学校で習う大半の出来事はこの大晦日の1日間の歴史ということになる。長い期間をかけて人類はこの1日にたどり着いた。人類の歴史の中では短い1日であるが、この1日には凝縮された密度の濃い歴史が詰まっている。私たちは大晦日の最後の数分間しか生きていないが、この密度の濃い1日の中で生きていく。

(仲原知之)

風車 第41号

平成20年3月●日 発行

(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊571-1

Tel: 073 (433) 3843

Fax: 073 (425) 4595

e-mail: maizou-1@wabunse.or.jp

URL http://www.wabunse.or.jp